

参加チーム各位

第16回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
実行委員会

第16回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会「BLS アセスメント」について

第16回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会における「BLS アセスメント」の実施方法、採点基準、および評価を次の通りとしますのでご確認ください。また、BLS 標準実技の流れと呼称例については別紙の通りとしますので、あわせてご確認ください。

記

■ 実施方法

1. BLS アセスメントは、各チーム（男女別）の出場登録されている選手から抽選により2名選出される。出場登録選手が1名の場合は1名で競技を行うこととする。（評価補助員を競技者Bとして競技を行う）。
2. BLS アセスメントは参加必須種目とする。BLS アセスメントに出場しなかった場合、そのチームはチーム総合の表彰対象から除外される。また、BLS アセスメントの種目別表彰は行わない。
3. 選出された競技者（以下、競技者）の氏名は、競技が行われる日の午前7時30分に「本大会専用オープンチャット等に掲示される」
4. 競技者が、なんらかの理由（怪我・病気等）により出場できない場合、午前8時までにBLS アセスメント評価員に申し出なければならない。BLS アセスメント評価員がこれを認めた場合、残りの出場登録選手の中から再抽選を行い、その場で競技者が発表される。
5. 競技は決勝のみとする。各競技者の判断で指定された時間内に競技会場に行き、受付を行った後、BLS アセスメント評価員の指示で競技を開始する。
6. 競技者が他の出場種目の進行状況により指定された時間内に「BLS アセスメント」競技を行えない場合、あらかじめBLS アセスメント評価員に申し出なければならない。原則として、事前の申告なしに指定された競技時間内に受付ができなかった場合、その競技者は失格となる。
7. 競技者は、チームユニフォームを着用の上、参加すること（水に濡れた状態での参加は認められない）。
8. 競技者は受付時に名前とチーム名を申告する。
9. CPR および AED は、レールダル社製 CPR 練習用人形（リトルアン）および同社製 AED トレーナー（FR-2）を用いて行い、反応なし、普段通りの呼吸なし、頸椎損傷なし、途中回復なしの溺水ではない成人に対する処置（胸骨圧迫+人工呼吸+AED）を行うこと。（別紙 BLS 標準実技の流れと呼称例 参照）。これらの資器材は主催者にて準備する。
10. 人工呼吸はフィルターと一方弁が付いているマスク（ドーム）型のレサシテーションマスク（次ページ参照）を使用すること。シートタイプの感染防護具での参加は認められない。レサシテーションマスクは競技者A、Bそれぞれが準備すること。
11. 競技者A・競技者Bの指定に関しては、競技開始時にBLS アセスメント評価員より伝える。
12. 競技者は、競技開始前に人形およびAED トレーナーを使用して1分間の資器材確認および練習を行うことができる。資器材の不具合が生じた場合は、速やかにBLS アセスメント評価員に申し出ること。

13. 競技の撮影については、競技後に各チームの振り返りやBLSトレーニングの参考目的であれば、チーム関係者に限り映像を撮影することを許可する。
14. BLS アセスメントの評価（競技結果）に対する抗議は受け入れられない。
15. この他、なんらかの理由で競技に問題が生じた場合は、チーフレフリーが検討し対応を判断する。
16. 競技日の翌日は、競技に参加したチームにフィードバックを行い、評価について説明する。
C 評価のチームは必ず参加し、手技の改善に努めること。また A、B 評価のチームもフィードバックを受けることを推奨する。

■ 採点基準

CPR および AED の処置は、以下のポイントを BLS アセスメント評価員の目視によって採点する。

- ① BLS 標準実技の流れと呼称例（別紙参照）通り、正しく進められているか。
- ② 胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸の手技は正しく行われているか。
- ③ AED は正しく扱われているか。

■ 評価

競技者の CPR および AED の処置は、BLS アセスメント評価員によって、以下の 3 段階に評価される。また、得点は以下の通りとしチーム総合成績に加えられる。

評価	得点	内容
A	8 点	3 つの採点基準が正しく行われていて、特に修正すべき点がない
B	5 点	3 つの採点基準が正しく行われているが、注意すべき点がある
C	2 点	3 つの採点基準のうち、どれかひとつでも正しく行われていない

■ レサシテーションマスクについて

《使用可能》 マスク（ドーム）型の人工呼吸用感染防護具



写真と同一商品でなくても使用可能だが、フィルターと一方弁が付いているマスク（ドーム）型のもので、救助者と傷病者の間に一定の距離を設けることができるものを使用すること。

《使用不可》 シートタイプの人工呼吸用感染防護具



写真のとおりシートタイプのもので、救助者の口がシートを介して傷病者の口と密着するものは使用不可とする。※中央と右側の写真のように一方弁が付いていても、シートタイプであれば使用不可とする。

(以上)

「BLS アセスメント」に関する Q&A

第 39 回全日本学生ライフセービング選手権大会（海インカレ）BLS アセスメントに関する要項を発出後にいくつかご質問やお問い合わせをいただきました。今回の学生プール競技選手権大会においても同様の考えです。ですのでご確認の程よろしくお願いたします。

Q1 選出された選手がレサシテーションマスクを忘れた場合への対応はどうするのか

A1 基本的にはそのまま参加を認めます。

ただし、人工呼吸を正しくできていない（することができない）ため、C 評価対象となります。

そのため、事前に各自・各チームで準備をお願いいたします。

BLS アセスメントの目的は、各自・各チームが事前に資器材準備や練習を実施することによって、日常に起こりうる緊急事態に対し、ライフセーバーの実施する BLS の精度を高めることにあることをご理解ください。

Q2 BLS アセスメントに使用するポケットマスクは持参して頂く形だが、機材チェックなどは行うのか

A2 要項に記載されているマスク（ドーム）型のレサシテーションマスクでフィルターと一方弁が付いているかは目視で確認します。ただし、HEPA フィルターであるかどうかまでは確認しません。

なお、一部ご意見として、『新型コロナウイルス感染症に対する ライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2024』に記載されている、HEPA フィルターを使用すべきではないかとの指摘をいただきました。本来であれば HEPA フィルターを使用したいところですが、HEPA フィルターの使用を義務付けると、準備と事前練習のハードルが高くなりすぎるため、今回は導入を見送ることとしました。

Q3 感染防止はどこまでするか（グローブ、マスク、ゴーグル、ガウン）

A3 今回はレサシテーションマスクのみです。もちろん感染対策全てを評価したほうが良いという考えは理解できますので、今後の検討課題とさせていただきます。

Q4 JLA の BLS 標準動画では今回使用が認められていないフェイスシールドが使用されている。レサシテーションマスク使用の標準実技を JLA として動画で示す必要がある。これからアセスメントに臨む選手が正解を知らない。

A4 レサシテーションマスクを用いた心肺蘇生の動画を作成しました。AED の使用部分については公開済みの動画を参考にしてください。

●レサシテーションマスクを用いた心肺蘇生の動画 ●JLA 公式 JRC 蘇生ガイドライン 2020 準拠 BLS 動画

<https://vimeo.com/1010910728/07e79d9d76>

<https://youtu.be/EwdyAk-0Z9c>

